長さの測定：目盛りと0の位置をたしかめる

講師用メモ・バージョン 2

1〜2ページは目盛りを読む見本と対話、3〜5ページのC1〜C9は児童が行う課題です。実物のものさし、紙、鉛筆、二枚以上の細い紙片を用意します。板の端と0の目盛りが一致するかを一緒に確かめます。模式図を印刷して実際のcmの尺度にはしません。読むときは単位・始まり・終わり、測るときは0の目盛りと紙の端の合わせ方を観察します。終点だけを答えたときも、答えを先に示さず、どこからどこまでの長さか児童に指してもらいます。見当と実測、測り方と最終値を分けて記録します。妥当な別の確かめ方も認めます。順序・使うページ・時間は講師が選びます。実際の授業での試用はまだ行っていません。

練習問題の解答はこの講師用メモに分けています。編集版であり、実際の授業での試用はまだ行っていません。

C1〜C3：始まり・終わり・長さを区別する

C1. 左の図の線の長さを、何cm何mmか、また何mmかで表してください。読んだ目盛りを指して説明してください。

解答・確認の観点：3cm8mm=38mm。0の目盛りと終点3cm8mmを児童が示し、小さい目盛りは1mmと説明。

C2. 右の図の線は、どの目盛りからどの目盛りまでありますか。両端をmmで表し、間の長さを説明してください。

解答・確認の観点：始まり14mm、終わり52mm、間は52−14=38mm。終点の52mmそのものを長さとしない。

C3. 右の図について「終わりが52mmだから、線の長さも52mm」という説明を、図や式を使って確かめ、正しく直してください。

解答・確認の観点：始まりが0でなく14mmなので、52mmは終点の位置。14mmから52mmまでの間は38mm。0から同じ線を測り直す説明も認める。

C4〜C6：実物で測り、測り方を見直す

C4. 実物のものさしで、紙に4cm7mmの線を引いてください。始まりと終わりを示し、別の向きからもう一度測って確かめてください。

解答・確認の観点：0から4cm7mm（47mm）までの線。再測定でも同じ長さを確かめる。紙の端そのものを0に置くことまでは要求しない。

C5. 小さな紙片の辺を一つ選び、何cm何mmくらいか見当を付けてから測ってください。見当と実測を別に記録し、違ったところを説明してください。

解答・確認の観点：測定前の見当と実測値を残す。0と測る端を合わせ、他端を読む。実物ごとに値は異なり、一致そのものを採点条件にしない。

C6.「ものさしの板の端に合わせれば、いつでも正しい」という説明を、手元のものさしで確かめてください。板の端と0の目盛りの位置を調べて話してください。

解答・確認の観点：実物の板の端と0の目盛りが一致するかを確認。一致しない場合は板の端基準ではずれるので、0の目盛りを基準に測る。手元のものが一致する場合も、すべてのものさしで同じとは決めない。

C7〜C9：単位をそろえ、次にも使える確かめ方へ

C7. 紙片Aの長さは2cm8mm、紙片Bは31mmです。同じ単位や図を使い、どちらがどれだけ長いか説明してください。

解答・確認の観点：Aは28mm、Bは31mmなのでBが3mm長い。単位の対応と差を示す。図での説明も認める。

C8.「1cmは100mm」という説明を、実物のものさしの小さい目盛りを使って確かめ、直してください。

解答・確認の観点：隣り合うcmの数字の間を10こに分ける小さい1mm目盛りを確認し、1cm=10mmに直す。境目の線の本数と区間の数を混同しない。

C9. 次に一人で測るときのために、単位、始まり、終わりについて自分の確かめる手順を作ってください。講師がその手順で一つの線を測り、伝わるかを一緒に確かめてください。

解答・確認の観点：例：目盛りの単位を確認、測る端と0を合わせる、他端を読む、数と単位を記録する、必要なら再測定。0でない始まりなら両端の差を使う。実際の操作に即した順序と、伝わらない点の修正を評価し、特定の文句や項目数を強制しない。

利用と出典表示

© 2026 MomentDesk / PRYADKO DANILA. 無料・有料の授業で利用し、自分の授業用に変更できます。共有時はMomentDeskの出典表示を残してください。テンプレートの転売や、自作としての再公開はできません。

文部科学省・小学校算数編・小2C(1)：単位cm・mmと測定（冊子122〜123/PDF128〜129） — https://www.mext.go.jp/content/20211102-mxt_kyoiku02-100002607_04.pdf#page=128